

いま話題の【少額投資非課税制度】とは

Q 平成26年1月からNISA(ニーサ)という愛称の「少額投資非課税制度」が日本でも導入されるようですが、その概要について教えてください。

A 平成25年末で「証券優遇税制」として上場株式等の譲渡益や配当等に適用していた10%の軽減税率が廃止され、平成26年1月以降は本則の20%課税(復興特別所得税を含めると20.315%)になる予定です。そこでこの優遇税制に代わるものとして導入が決定されたのが、この「少額投資非課税制度」です。

この制度は、「上場株式や投資信託などの譲渡益・配当金等を非課税にする制度」であり、知らない税金面で損をすることになりますので、しっかりと制度を理解しておく必要があります。

ちなみに、NISAはイギリスの「ISA(個人貯蓄口座)」をお手本に導入された制度であり、イギリスでは国民の約4割がISAを利用し、広く国民の資産形成・貯蓄の手段として定着しています。頭文字のNは日本を意味し、「日本版ISA」の愛称とされています。

【概要】

平成26年1月から、日本に居住する20歳以上の者が、証券会社や銀行などの金融機関で少額投資非課税口座を開設すると、毎年100万円までの非課税投資枠が設定され、投資金額100万円分までの株式投資や投資信託にかかる譲渡益や配当金などが非課税となります。平成26年から制度が始まり、平成35年までの10年間、毎年新たに100万円の非課税枠が与えられます。非課税の期間は、それぞれ5年間となっており、途中で売却した場合は、非課税枠を使ったとみなされて、再利用することはできません。さらに、非課税枠を使つての投資総額は合計500万円となっており、それ以上の金額は非課税の対象とはなりませんので注意が必要です。

【留意事項】

- ①対象商品は上場株式、上場投資信託(ETF)、不動産投資信託(REIT)、株式投資信託などです。現在のところ、国債、社債、公社債投資信託などは対象になっていません。
- ②投資可能額は、年間100万円です。なお、非課税期間が最長5年間ですので、非課税投資総額は最大で500万円になります。
- ③上限100万円のうち60万円しか投資しなかった場合、残り40万円の未利用枠は、翌年以降に繰り越すことはできません。
- ④非課税期間は最長5年間ですが、この途中のいつでも売却はできます。
- ⑤この口座で売買損失が発生した場合、ほかに保有する特定口座や一般口座の損益との損益通算はできません。
- ⑥非課税期間の終了時、特定口座や一般口座に振り替える場合の注意事項です。この場合、税務上は特定口座・一般口座に振り替える時点の時価で取得したことになります。したがって、その後の売却については、振替時の時価との比較で売却益・売却損が計算されることになります。
- ⑦NISA口座は、全ての証券会社や銀行などの金融機関を通じて、一人1口座しか開設できません。銀行では、上場株式、ETF、REITなどは購入できませんから、購入する商品内容を十分に検討のうえ、購入先の証券会社や銀行を選んで下さい。

少額投資非課税制度、通称NISA(ニーサ)とは...

金融機関で
少額投資非課税口座を開設すると...

【年間100万円分の非課税枠】

株式投資、投資信託など
配当金や譲渡益などが
非課税に!!



このコーナーは、税理士、公認会計士によって構成される税務実務家の研究グループが担当しています。このコーナーに関するご質問は、下記の事務局までお願いいたします。

税理士・公認会計士 香本 明彦・谷口 貴
税理士 植田 順・堀口 裕弘・木戸 義人・森川 敏行・松井 克行
萩 恒夫・萩原 政宏・岡本 弘之・今西 正二・徳山 智子
縄田 浩昭・中川 秀夫・笠崎 静子・新見 和也・古瀬英美子

伏研会事務局 京都市伏見区桃山町養育19-14 植田順税理士事務所内 TEL:075-604-3160 FAX:075-605-0185

次代のゴルファーに対し放送の形態も多様化進む より臨場感が伝わるインターネット放送元年始まる

今年から女子プロトーナメントがインターネット中継を取り入れ話題を呼んでいる。女子ツアーは序盤戦から多くのギャラリーを集めている。これは、若手選手の初優勝や中堅ベテラン選手の活躍もあり、あれほど強かった外国選手を凌駕するほどの試合展開が続いているためだ。一方男子ツアーでも松山英樹選手がルーキー2戦目にしてプロ初優勝を飾ったり、尾崎将司選手のエージシュートなど話題も事欠かない。日本のトーナメントが久々に熱い戦いを伝えている。



サントリーレディスオープン2013アマプロチャリティーナメントより

ゴルフ人口の将来を考えると2015年問題だけでなく、総人口に対しても悲観的な数字が並ぶ。ゴルフ界では早くからこの危機感を持ちジュニア育成に取り組んでいる。プラスチック製のクラブと大きなやわらかいボールを使つて行うスナッグゴルフの普及は全国に広がり、今や約420の小学校の授業や部活で取り入れられるまでになった。また、ツアー選手権でも空きホールを使用してスナッグゴルフ大会も開催された。ゴルフに興味があるものの、実際ゴルフを体験する機会が少ないジュニア層。ジュニアの大会を見ても参加しているのはほとんどが同じ顔ぶれだ。実際にはジュニアゴルファーはそれほど

Topics

ジュニアゴルファーの育成も元年

公立小学校でゴルフの部活がスタート

ほと育っていないとの意見も多い。そんな中、今年4月から千葉県の公立小学校でクラブ活動にスナッグゴルフではない本格的なゴルフを取り入れたところがある。隣接する練習場を使用し、ジュニア用に特注したクラブとプロによるレッスン、シニアコースを使つての練習メニューだが、ゴルフを通じて人間性、個性を育てたいとの思いから始めたという。因みに小学校にゴルフ部を最初に創設したのは沖縄県那覇市の公立小学校。スナッグゴルフの普及とあわせ、ゴルフがより身近に感じられる環境づくり。これを契機に本当の裾野拡大につながって欲しいものだ。

を伝えるには、テレビの生中継で十分という意見もある。しかし、ゴルフファンが必ずしもテレビ観戦ができる状況にあるわけではない。すべての環境下で生中継の興奮を伝えるにはどういった手法があるかがインターネット中継の発想だ。インターネット中継の利点は、普段テレビではできないホールアウトした選手にも出演してもらい、視聴者と人気選手のやり取りや裏話がライブで楽しめる

ことにある。いわば、これまでにない観戦体験ができるということにある。また、トーナメントに出場する選手も国際化しており、ネットを駆使したコンテンツ配信が必然的になっているという事情も見えてくる。ややもすればスポンサーサイドのサービス提供や販促の視点で見られがちであるが、今回の試みがあくまでもゴルフファンに対して多様な楽しみ方の選択肢を提供したものだと思えたい。